

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2771100902
法人名	医療法人 徳州会
事業所名	医療法人 徳州会 グループホーム 三田
訪問調査日	平成 21 年 11 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 18 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年11月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771100902
法人名	医療法人 徳州会
事業所名	医療法人 徳州会 グループホーム三田
所在地	大阪府岸和田市三田町134番地 (電話) 072-441-5501

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月18日

## 【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.54 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨(準耐火建築) 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	5,250 円	
敷金	有( ) 円 無○			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円 無○	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人徳州会岸和田徳州会病院、医療法人清真会三田歯科診療所
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「医療法人徳洲会グループホーム三田」は、JR久米田駅から東南へ2kmほどの閑静な住宅地の中に佇む。徳洲会グループの一つで、老人保健施設岸和田徳洲苑に併設されている。事業所の窓からは、池や丘陵など四季折々の素晴らしい自然の風景が望める。事業所は1ユニットであるが、延べ床面積約100坪の平屋建て、居室の広さも約8畳とゆったりしている。建物の中央部にリビングがあり高い天井から自然の明かりが採り入れられていて、ゆったりと落ち着いた雰囲気を出している。そこでは、利用者がそれぞれ職員と共に支え合いながら、当たり前前の生活を楽しんでいる姿が見られる。緊急時には併設の岸和田徳洲苑と協力体制が整っており心強い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、内外研修会への計画的かつ積極的な参加と同業者とのネットワーク作りすることを課題とされていた。内外研修会は職員の育成を段階に応じて計画実行されているし、まだまだ回数は少ないが地域同業者との勉強会も実施しサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価について、事業所の管理者がその意義や目的を職員全員に伝えた上で、全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市高齢介護課職員、自治会長、利用者代表、利用者家族等代表、法人施設長、法人看護師長、法人事務長、事業所管理者のメンバーで構成され2ヶ月に一度開催している。会議では事業所からの事故報告やそれに対する取り組み課題などを報告すると同時に参加者から質問や意見、要望などを受け改善に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を設け、花見や夏祭り、クリスマスなど家族行事の都度、呼びかけて意見を聞くようにしている。その他に、苦情箱を設置したり無記名のアンケートを行い意見の出しやすい仕組みを作っている。出された意見・要望等は、課題を検討し事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議のメンバーの一人である地域自治会長の協力を得て、地域の行事や隣接している幼稚園や小学校の行事にも参加し、地域の人々との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(①地域住民との交流機会を支援する。②安心と尊厳ある生活を支援する。③日常生活能力の維持・向上に努めて、楽しみ生きがいある生活を提供する)と事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内のフロアやスタッフルームなど目につきやすいところに掲示したり、職員の名札の裏に記載し携帯している。また、その取り組みについてはミーティングで都度確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーの一人である地域自治会長の協力を得て、併設の行事に参加してもらったり、隣接している幼稚園や小学校の行事にも参加して、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価について、事業所の管理者がその意義や目的を職員全員に伝えた上で、全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市高齢介護課職員、自治会長、利用者代表、利用者家族等代表、法人施設長、法人看護師長、法人事務長、事業所管理者のメンバーで構成され2ヶ月に一度開催している。会議では事業所からの事故報告やそれに対する取り組み課題などを報告すると同時に参加者から質問や意見、要望などを受け改善に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議や年に数度行われるグループホーム連絡会では、市高齢介護課職員と事業所の課題点などについて話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	運営推進会議では、市役所高齢介護課職員が二名参加し共に話し合っているが、グループホーム連絡会や研修会など市が支援する行事開催数が非常に少ない。事業所から市担当窓口積極的に働きかけ、接触できる機会を多くつくる努力をして欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回(春、夏、秋号)、三田たよりを発行し家族等に送付している。たよりにには利用者の事業所内での行事の様子や利用者が作成した作品などが掲載されている。金銭管理は家族等の来訪時に出納帳を見せサインをもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、花見や夏祭り、クリスマスなど家族行事の都度、呼びかけて意見を聞くようにしている。その他に、苦情箱を設置したり無記名のアンケートを行い意見の出しやすい仕組みを作っている。出された意見・要望等は、課題を検討し事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による介護を重視して、事業所の職員は固定化されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、事業所内外で「感染症」「ノロウイルス」「インフルエンザ」「認知症対策」「拘束」「接遇」など、段階に応じた研修の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府社会福祉グループホーム協議会や岸和田市事業所連絡会に参加している。また、協議会や連絡会における研修会や交流会を通して意見交換をし、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、本人と家族等が事業所を見学することから始め体験入居等を経て、他の利用者や職員、場の雰囲気に徐々に馴染み納得した上で利用に至るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人を介護される一方的な立場に置かず、利用者から暮らしの中での生活の知恵・地域のこと・昔の事などを教えてもらうなど、共に支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、生活歴や日々の関わりの中で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の詳しいアセスメント表や話し合い等で、本人や家族等の希望を十分把握している。カンファレンスでは、職員全員で意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度は確認のため総合評価をし、介護計画の見直しを行っている。入退院などで状況の変化が認められた場合は、その都度見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の老健施設の行事(バイキング昼食会、餅つきなど)への参加者の送迎支援をしたり、本人や家族等の希望する医療機関への受診支援を家族等と共に行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を聞いてかかりつけ医は決めている。しかし、ほぼ全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応を見据えて、「医療連携における対応指針」を本人や家族等に説明している。状態に変化が起こった場合には、早い段階から本人や家族等、医療機関と相談し方針を共有している。併設施設の相談員も相談に応じている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーの保護と尊重を職員会議でよく話し合いながら、全職員誓約書をとるなどして徹底を図っている。記録等の個人情報の取り扱いも書庫に鍵を掛けて保管するなど万全を尽くしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっているが、本人のペースで生活できるよう支援されている。利用者の意見をよく聞き取る事を大切に、希望にそった生活ができるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日に献立会議を利用者と共に行い、好みや希望にそった内容を事業所で作っている。食事は職員も同じテーブルに着き、同じ物を食べ、楽しんで摂れるように支援している。下膳は利用者個人個人で出来るように職員が支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴としてはいるが、毎日でも可能で利用者の希望を優先している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族等や本人から好きな事、興味のあることを聞き出したり、相談したりしながら、一人ひとりにあった役割、楽しみごとを見つけ出し、気晴らしの支援がされている。 (野菜の栽培、野球観戦の好きな人にはテレビ、懐かしい歌を書くなど)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の横に大きな池や丘陵があるなど、周りは自然に満ち溢れている。玄関前のベンチで外気浴をしたり、近隣の散歩するなど気分転換をしている。季節ごとの外食やお花見、夏祭りの他、併設施設のバイキング昼食会に出かけたりもしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き開錠し、職員の見守りをよくしている。居室は常に開錠しているが、個人の意思を尊重している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署の協力で、防災、避難訓練を行なっている。夜間でも、併設の老健施設職員の応援体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は、個別に記録し把握している。また、利用者一人ひとりの状態や力に応じて、食材の刻み方を変えるなど工夫した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花の鉢植えや果物の一枝が置かれている。また居間の壁面には、利用者で作った絵や色紙などが飾られ生活感や季節感が採り入れられている。リビングルームは高い天井からの採光で明るく、和室・オープンキッチンと繋がっていて開放感に充ちている。廊下や和室にソファー、玄関前にイスを置くなどくつろげる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には判りやすい表札がかかり、居室には使い慣れた箆笥やテレビ・飾り物・家族の写真などが持ち込まれ、落ち着いた雰囲気になっている。各居室ごとにトイレや洗面台が設置され、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		